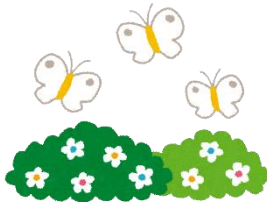


令和6年度

北海道教育大学  
附属函館幼稚園だより  
NO. 10【号】



## 花には蝶

北海道教育大学附属函館幼稚園長 五十嵐 靖夫

大学の地域教育専攻の1年生を対象とした障害児心理入門の授業の1回目、私は毎年、田村 一二(いちじ)先生の話をしてもらいます。田村先生は、明治42年、京都府に生まれ、昭和8年、京都師範学校専攻科を卒業後、小学校の特別学級の担任となりました。新卒の時に「3年間だけ特別学級の担任をしてくれ」と校長に頼まれ、仕方なく引き受けました。これが縁で田村先生は生涯、知的障害児と関わることになります。学校教育に限界を感じた田村先生は障害児との起居を共にする「生活即教育」の場を求めて戦中に石山学園、戦後には近江学園、次いで一麦寮と施設を設立しました。私は田村先生にお会いしたことがないのですが、子どものエピソードがたくさん書かれている先生の本を大学時代に夢中になって読みました。その中で特に印象に残ったお話の一つを紹介します。

施設の先生を雇うときに、思い切って先着順にしたことがある。なんでそんなことをしたかという、ぼくは縁というものを考えた。結び合わされるのは、お互いにきまっているので、花には蝶、砂糖には蟻、そして糞には蠅、自分が糞のくせに、蝶よこいというても、それは無理やと90歳で亡くなったおばあちゃんに教えてもらった。これでいくと、寮長のぼくが糞なら蠅しかとんでこないし、花なら蝶がくる、それだけのこと。それで、ぼくは腹をすえて先着順に採用することにしたというわけ。

(田村一二, 1980. 「ぜんざいには塩がいる」 柏樹社)

花には蝶、砂糖には蟻、そして糞には蠅・・・その通りかもしれませんが。文句ばかり言っている人の周りには文句ばかり言う人が集まります。私は人に恵まれていますという人の周りにはいつも人に感謝する人が集まります。

私が授業で何回もこの話をするので、試験の問題になると思った学生が過去にいました。「蠅も糞も漢字で書けるように練習したのに何で試験に出ないんですか!」と怒っていました。